学習内容報告書 フォーマット

学校名	唐津市立佐志小学校
授業者	前川忍、横山萌可

1.　単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1.　単元名

佐志大好き！～佐志の海～

1-2.　学年

３年

1-3.　教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間、社会科

1-4.　単元の概要

児童にとって初めての総合的な学習の時間である。オリエンテーションの時間では、まず、１，２年時の生活科の学びをふり返りながら、ふるさと佐志について知っていること、興味を持ったことを出し合う中で、「佐志の海と祭りについてもっと詳しく調べてみたい」という思いが高まった。そして、自分たちが学んだことを誰にどのように発信するか話し合い、地域や全校のみんなに知らせたいということで、壁新聞を作り、学校と佐志公民館に掲示することに決めた。そこで、社会科の１学期単元「学校のまわり」において町探検を実施する際に、校区内にある水産加工会社「玄海漬」商店の存在に気付かせ、総合的な学習の時間における海洋教育との関連付けを図った。このように、今年度のテーマを「佐志大好き！」とし児童と共に調べていく事柄を、１年間の前半は「佐志の海」、後半は「佐志の祭り」として、身近な人に発信する計画を立てた。「佐志の海」では、コロナ対応のため、「玄海漬」商店・工場の見学はできなかったが、社長を講師として学校に招き話を聞くことで、見学に代えての導入学習とした。そこで、佐志は昔から漁業が盛んだったこと、クジラも捕れたこと、そうした豊かな海の幸を生かした産業も盛んになったことを知った。このことを受けて、「もっとクジラのことを知りたい」という思いを強くした児童は、図書、インターネットによる調べ学習を行い、疑問を解決したりもっと詳しく調べたりするために、クジラ博士（名護屋城博物館学芸員）や佐志博士（校長先生）を招いて学習を深めた。コロナ感染予防のため、予定していた東京からのクジラ博士の出張授業、虹ノ松原体験学習が中止となった。

1-5.　単元設定の理由・ねらい

児童が、自分自身が生活する身近な地域のもの・こと・人とのつながりを実感したり、地域を誇りに思い大切にしようとする心情を持ったりすることが、社会と主体的に関わり、創造していこうとする意識の基盤となると考える。そこで、海と深く関わってきた佐志校区の、地域素材・人材を積極的に活用した、総合的な学習の時間と社会科の教科横断的なカリキュラム・マネジメントと授業実践を行えば、児童が地域を誇りに思い、大切にしようとする意識を高めることができるであろう。

1-6.　育みたい資質や能力、態度

(1)身近な海について調べたい事柄を見つけたり、追及したい課題を設定したりする力。【知識・技能】 (2)調べ学習を通して得た情報から、身近な海やそれに関わる人々の生き方などに魅力を感じたり、それを他者へ伝える方法を考えたりする力。【思考力・判断力・表現力】 (3)身近な海に関心を持ち、進んで学習に取り組み、積極的に発信しようとする力。【向かう力】

1-7.　単元の展開（全２６時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	**「佐志大好き！」の学習計画を立てよう。**	※２年生活科の学びを、学習成果物を掲示して想起させながら、学習することがらを「佐志の海」と「佐志の祭り」の２つにしぼらせる。
社 2	**社会科** **「学校のまわり～町探検に出かけよう～」**	※町探検の中で、「佐志の海」に関わることがらに、意図的にふれておく。 ・唐房漁港　・漁村センター　・防波堤　・玄海漬
2	**佐志人工浜に行ってみよう。**	・どんなものがあるか観察させる。その際、ゴミが多いことにも気づかせ、次の学習につなげる。
2	**佐志人工浜をきれいにしよう。**	・前時の活動の振り返りから清掃活動に発展したという流れにし、意欲を高める。
2 ＋ 社 2	**佐志校区の海を生かした仕事について調べよう。** **社会科** **「工場の仕事～玄海漬の工場を調べよう」** ＜見学時の学習＞ ・工場見学　・社長さんからの説明 ・酒粕漬パックラベルシール貼り体験 ・社長さんへの質問 ＜見学後の学習＞ ・さらに知りたいことを質問（社長さんへ手紙） ・社長さんの返事を受けての学習とふり返り	※町探検の写真を見ながら「佐志の海」に関わることがらをふり返り、興味をひかれた場所「玄海漬」の商店の見学や工場での体験学習への意欲を高める。 ☆玄海漬社長　髙田庄一朗さん ※コロナの影響で見学者が工場に入れないので、髙田社長を講師として招いた。 ※昔は佐志の海でもクジラが捕れていたこと、玄海漬はクジラの軟骨を使っていることを押さえる。 ※酒粕漬パックラベルシール貼り体験を通して、工場で働く人の技や知恵などに気づかせる。 ※ふり返りの時間を大事にして、もっと知りたくなった「クジラ」について調べたい意欲を高める。
4	**クジラについて調べよう。** ＜出前講座＞ ・クジラの種類と大きさ、特徴などの学習 ・佐志の海とクジラにまつわる話 ・講師の所員さんへの質問	☆クジラ出前講座　県立名護屋城博物館学芸員 ※クジラの大きさとそれに立ち向かっていった昔の佐志の漁師のすごさを感じさせる。 ※佐志小学校前の海にクジラの大群が現れたが、町民運動会の火矢の音で逃げてしまった話から、身

	＜体験後の学習＞ ・分かったこと、思ったこと、さらに知りたいことを、ワークシートにまとめる。 ・さらに知りたいことを、本やパソコンで調べる。	近な話として興味を持たせる。 ※昔の佐志の海で生きた人々のくらしについて、調べたい意欲を高める。
3	**昔の佐志の海と人々のくらしについて調べよう。** ＜ＧＴの講話＞ ・佐志の海でとれる魚クイズ ・今の漁法と昔の漁法 ・イカ漁　・イワシ漁　・クジラ漁 ・ＧＴへの質問 ＜事後の学習＞ ・分かったこと、思ったこと、さらに知りたいことを、ワークシートにまとめる。 ・さらに知りたいことで、家の人等に聞いて分かったことを伝え合う。	☆佐志博士　前校長先生 ※魚クイズで、佐志の海はたくさんの魚が獲れる豊かな海であることを感じ取らせる。 ※資料「肥前州産物図考」などから、昔も今もたくさんの人々が知恵を出し、力を合わせて漁業を行ってきたことを伝える。
8	**学んだことをまとめて、発信しよう。** ・これまで調べてきたことの中から、自分たちが伝えたいことをグループで話合いう。 ・自分たちが決めた方法でまとめていく。さらに調べたいことがあるときは、資料等を用いて調べ直す。 ・できた新聞を校内と公民館に掲示したり、家庭に発信したりする。	※伝えたいことを決めるときには、その根拠を明確にさせるために、自分の驚きや感動を振り返らせる。 ※様々な表現方法があることに、他教科の学習や他学年の取組を通して気付かせる。 ※発信した相手からの感想等を得ることができるようにすることで、児童が達成感を味わったり、さらなる学習意欲を持ったりすることができるようにする。

2.　学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1.　単元における位置づけ

単元　２２　時間中の　１５　時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目　/ 単元 15 時間中の 4,5 時間目

2-2.　本時の目標

これまでの調べ活動で得た情報の中から他者へ発信したい情報を選択することができる。

2-3.　本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
1　これまでの調べ学習で分かったことや自分の考えを振り返る。	○ 調べ活動の様子を視覚資料で提示したり、児童のふり返りを引用したりすることで、学習したことだけでなく、感じたことや気付いたこと等も想起できるようにさせる。
2　本時のめあてを立てる。	○ 国語科の学習で下級生に紹介文を書いた成果を振り返らせ、佐志の海について学んだことを他者へ伝えたいという意欲を持たせる。
めあて　　グループで話し合い、みんなに伝えたいことを３つえらぼう。	
3　これまでの調べ学習で分かったことの中から、他者へ伝えたいことがらをグループで話し合い３つ選択する。	○ 佐志人工浜のこと、玄海漬のこと、昔の佐志の海のこと、くじらのことの中から他者へどの何のことを伝えたいか考えさせ、自分が感じた魅力等を、選択の根拠として記述させる。 ○ 個人が記述したものを基に話し合いを進めさせる。
5　本時の活動をふり返る。	○ 「ふり返りのポイント」を提示し、本時のふり返りを記述させる。 ＜ふり返りのポイント＞ ・今日の学習で考えることができたこと。 ・友達のよかったところ、なるほどと思った考え。 ・次の時間に取り組みたいこと。
6　次時への見通しを持つ。	○ 数名の児童にふり返りを紹介させ、本時の活動を称賛し、次時の活動への意欲を喚起させる。

3.　今回の活動の自己評価

・コロナ対応で、見学や人とのふれ合いを通して学んだりする学習が制限されたが、昨年度の実践事例があったので、見通しを持って修正を図りながら、できる範囲で行うことができた。
・今年度も「クジラ教室」に当たったが、コロナの影響で中止となった。しかし、県立名護屋城博物館学芸員さんの講話は行うことができたので、地元密着の話を聞くことができてよかった。
・後半の「佐志大好き！～佐志の祭り」の学習では、農村地区の祭り「佐志くんち」が豊作を祈り感謝する祭りであるのに対し、漁業地区の祭り「唐房くんち」が大漁を祈り感謝する祭りであることを知り、前半の「佐志の海」学習で学んだことが深まって、児童の地域に対する視野が広がり、愛着が高まった。
・「もっと知りたい」「もう一回くわしく調べ直してみよう」等、児童の意欲的に学び続ける姿も見られた。

4.　今後の課題

・令和４年度も、コロナ対応の中で学習を進めることになることが予想される。今年度の実績を基に、その都度最適な方法を考え、実践していく必要がある。
・「昔の佐志の海と人々のくらしについて調べよう」のゲストティーチャーとして、ふるさとの「もの・こと・人」から学ぶということに意味があることから、状況が許せば、佐志公民館サークル「佐志の歴史研究会」のメンバー（会長 堀川義英さん）らにお願いしたいと考えている。

5.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

・特になし

※実施した単元ごとに作成してください。
※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。
※基本レイアウト
　フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm
※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。
　例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1
※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。